

令和2年度第1回障害者支援センター運営委員会議事録

■開催日：令和2年9月14日（月）14時～16時15分

■場所：横浜市健康福祉総合センター9階 901・902

■出席者：委員総数17名中16名出席

茨木委員長、井上委員、野々垣委員、松島委員、渋谷委員、永田委員、山田委員、熊坂委員、長谷山委員、下山委員、谷口委員、早坂委員、室津委員、笠原委員、小久保委員、川島委員

（オブザーバー）

横浜市1名（松島福祉保健課係長）

横浜市社会福祉協議会2名（荒木田会長、平木事務局長）※冒頭、新任の挨拶後に退席

■欠席者：大友委員

■次第

〔知久事業推進課長〕

新型コロナウイルス感染症の影響で3月と6月の運営委員会を中止・延期していたが、ようやく本日開催することとなった。会議中はマイクの消毒等、感染防止対策をさせていただく。

運営委員が改選され、R2.4.1～R4.3.31までの2年任期で就任いただいた。委嘱状を席上配布させていただいた。新任の方もおられるので、皆様に自己紹介をお願いしたい。あわせて、人事異動等についても紹介させていただく。

○運営委員自己紹介

○松島福祉保健課係長（オブザーバー）自己紹介

○人事異動紹介

市社協会長・事務局長の交代、障害者支援センター職員の異動について報告。

〔荒木田市社協会長〕

3月まで横浜市副市長を務めていた。医療、福祉、子ども青少年、教育等の政策を主に担当していた。ダイヤモンドプリンセス号の対応にも関わった。6月末から市社協会長職に就任した。

皆様の活動もコロナの影響を大きく受けていると思うが、日頃、福祉と縁のなかった方でも、生活が一挙に困窮し、区社協を窓口にする生活福祉資金の緊急小口資金貸付を利用された。例年の1年間分の件数を1、2か月ではるかに超えた。収入が途絶えてしまったなど、困窮している方が地域の中にかくたくさんいるかを切実に感じている。食料支援についても、障害者の事業所に箱詰めの作業を依頼し、取りに来られない方に無事に送ることができ、喜ばれた。

こうした環境下で、いかにつながりを切らずに、いろいろな辛さ、苦しさに寄り添っていくか。お互いに会えない環境下だからこそ想像力を逞しくし、アンテナを高くしてつながっていくことが大切だと感じている。

皆様から情報を寄せていただき、活動を進め、行政にも伝えていきたい。

〔平木市社協事務局長〕

横浜市からの出向で4月から事務局長を務めている。市社協への出向は2回目で前回は平成 25、26 年度で総務部長を2年間務めた。横浜市へ戻った後は保健所の感染症対策のポストに従事した。コロナ禍で大変な時であるが、皆さまのお力添えをいただきながら職責を果たしていきたい。

○障害者支援センター新任職員自己紹介

○事務局職員自己紹介

〔森センター長〕

今年度はかなり大きな運営委員会メンバーの交代があった。運営委員会は何でも話をする場なので、ざっくばらんにお付き合いいただきたい。

お手元に配布されている機関紙「おげんきですか」にも掲載があるが、17 年間、運営委員長を務めてくださった谷口先生のところに伺った。今後も会う機会を作っていくことを希望されていた。また、私がセンター長になる前に沼尾センター長が急逝され、その後、代行を務められた三橋さんの娘さんから近況報告の手紙をいただいた。電話番号は変わっていないそうなので、連絡できる方はぜひしていただきたい。

できるだけ親身になったお付き合いをこの運営委員会でもしていただき、引き続きよろしくお願ひしたい。

〔知久事業推進課長〕

定足数を確認し、運営委員会の成立を報告。

1 協議事項

(1) 障害者支援センター運営委員会委員長の選出及び委員長職務代理者の指名について

〔知久事業推進課長〕

運営委員会委員長の選出及び委員長職務代理者の指名まで事務局で進行させていただく。

資料 5 に基づいて、委員長の選出及びその職務代理者の指名について説明。互選を依頼。

⇒茨木委員が委員長に互選された。

⇒茨木委員長により、谷口委員が委員長職務代理者に指名された。

〔茨木委員長〕

創設者から次に移ると組織は大変な時期を迎えることになる。私自身もどのように運営委員会をマネジメントしていくか、引き受けてよいものか迷いはあったが、谷口先生よりぜひこの組織を大事にしてほしいと手紙をいただいた。

私も大好きな言葉で谷口先生も言われていたが、障害者支援センターは「当事者性」「運動性」「開拓性」という3つがとても大事な組織のキーワードである。障害者が地域でどう生きていくか、当事者の想いをきちんと皆で理解していく。今の制度をどう使うかということ以上に、これから制度をどう作っていくか、どう変えていくかということを議論していきたい。特に横浜市の障害者支援は、20 世紀から開拓性がある事業をずっと展開してきている。とてもよい支援をしてきた行政だと思っている。それをどう守り、どう新しい活動に展開していくか、とても大事な 21 世紀の課題だと思っている。

先日、宮城県の前知事が船形コロニーを解体して知的障害者が地域で暮らせるようにと宣言したが、結

局、現知事は地域で暮らせない人のために 300 人規模の新しい入所施設を作ったというニュースがあった。その時に、「これが宮城型のノーマライゼーションだ」という知事の話がショックだった。どんなに美しい施設であっても、そこで 21 世紀の障害者福祉が展開されるということはやはりあってはならないと思っている。

地域で障害のある人もない人も当たり前で暮らしていく、当事者性を大事にして支援していく、それをどう運営委員会で話し合っ、障害者支援センターの支援につなげて、行政に伝えて協働していくか。大事な時期だと思うので、お手伝いできること、一緒にやれること、皆さんの意見を汲み上げることで、委員長の役が果たせたらよい。ぜひ新しく加わったメンバーの方も含めて、忌憚のない、言いたいことが言える運営委員会を司会していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

〔谷口委員〕

作業所の職員になって今年で 24 年になる。茨木先生からの指名を受けて、荷が重いところだが、今まで与えてもらったもの、育ててもらったものをお返していく立場になってきたと思いながら、運営委員会の中で何ができるかわからないが、お役に立てるようにしていきたい。

学生時代、三鷹市に住んでいたが、まだその頃は障害のある方が成人になると地域からいなくなっていた。東京都は地方に施設に持っていたためだが、ずっと近くにいた方が突然いなくなるのは不思議なことだと思い、何か一緒にできたらよいと思い、横浜市に来て仕事をしてきた。横浜市に来て、障害のある方がたくさん街にいるというのが最初の印象であった。その後、東京も障害のある方が地域に戻ってきたが、地域で暮らすことの大切さをとても感じている。

作業所も諸先輩方が運動を続けてきたが、今は頑張っても制度から落ちていく、予算もない中でどう維持していくか、難しい部分を感じている。昔は、頑張れば良くなる、予算が増えたということがあったが、今は運動しないと減っていく、頑張っても無駄だと思われてしまうこともある。そのような中ではあるが、皆さんと一緒に頑張っていければと思う。

〔茨木委員長〕

本日の協議事項は以上となっているので、ここで報告事項に移らせていただく。それでは、報告事項(1)令和元年度障害者支援センター事業報告及び決算について、事務局より説明いただきたい。

1 報告事項

(1) 令和元年度 障害者支援センター事業報告及び決算について

〔大貫事務室長〕

別冊資料の1～2ページに基づいて、概要と重点取組について説明。

〔各課長〕

別冊資料の3ページ以降について、各事業の所管課長より説明。補足事項は以下のとおり。

3 地域活動支援センター事業障害者地域作業所型運営費等助成事業

令和元年度に申請のあった団体が 90 事業所になっている。令和元年 10 月1日から 14 事業所が法定事業に移行したため、令和2年3月 31 日には 76 事業所になっている。

4 障害者グループホーム助成事業

助成か所は6か所だったが、2か所が法定移行関連費を受けており、現在は4か所となっている。

5 販路拡大事業

コロナの影響もあり、ふれあいショップ等での売上が伸びなかった。

16 セイフティーネットプロジェクト横浜

周知チラシの作成・印刷は、市民防災センターにて配架してもらうため。

災害シンポジウムは、ジョイカンパニーと自治会の防災訓練の取組事例なども通して、皆で考える機会として実施した。

17 障害者後見的支援事業

登録者数は1,741名で前年度より181名の増加であった。

18 よこはま障害者共同受注総合センター(わーくる)事業

企業訪問件数と受注件数は、前年度比約150%の増加であった。

19 横浜あゆみ荘事業

利用者推移について、令和元年度は過去5年間の中で一番少なく、通常の3割程度であった。

令和元年度 決算概要

障害者支援センター部分の収入について、予算は最大の事業所数・利用者数で計上されるため、実際の助成額である決算額との間に差が生じている。支出については、予算額と決算額の差が△800万円程出ているが、前年度繰越金から充当している。

横浜あゆみ荘事業の支出については、事業費支出が△1,000万円程出ているが、9月から半年間、レストランの厨房改修や12月から2か月間エレベーターの改修、1月に客室の配管の改修工事等を行ったためである。また、客室の洋室化や扉の自動ドア化の改修工事を前倒して進めた。

〔茨木委員長〕

ご質問・ご意見等いかがか。

〔山田委員〕

よこはま障害者共同受注総合センター(わーくる)事業について、どうしたら仕事や情報が受けられるか、わかりやすく説明してほしい。

また、助成団体監査事業で、外部専門職はどのように選任されているか。当事者にも専門的な資格を持った人がいる。

〔知久事業推進課長〕

わーくるについて、基本的には登録をいただき、登録事業所に情報を流して、コーディネートする仕組みになっている。それ以外の事業所や団体からも相談をいただければと思っている。直接の仕事の紹介は登録事業所が優先になるが、その他にも工夫、検討等できると思うので、意見交換、相談をさせていただければと思う。

〔小方監査担当課長〕

外部専門職として、税理士、社会保険労務士に関わってもらっている。監査員については、士業団体から推薦をいただいている。いただいた意見は今後の参考にさせていただきたい。

〔茨木委員長〕

わーくるもまだ長い事業ではないので、働き方や団体の情報等、今後も情報交換をしていってほしい。他にいかがか。

〔川島委員〕

予算が余って横浜市に返還したり、事業によっては足りなかったとのことであつたが、せっかくいただいているお金なので、できるだけ残らないような工夫ができないのかと感じた。かなりの金額を横浜市に返還していると、場合によっては、そんなにいらぬのかと言われてしまわないか不安がある。

また、足りないところは繰越金を充当しているとの説明であつたが、あゆみ荘は利用が多くなれば解消できるのかもしれないが、後見的支援の方は、ニーズがある限り応えていく必要がある。この先お金の面でどのような見通しを立てているのか。

〔八木支援課長〕

助成事業について、訓練会の人数や地域活動支援センター作業所型の事業転換等は、年度が始まってからの動きになる。他には転用できないため、事業ごとに返還する形を取っている。

〔有賀後見的支援担当課長〕

後見的支援制度については、あんしんマネジャーの産育休の取得があり、その関係で市あんしんマネジャーが一時的に当該区に入った。横浜市の方からは市あんしんマネジャーの本来業務ではないとのことから、若干委託料を減らすということがあつた。この事業は毎年、横浜市に必要な額の見積を出して積算をお願いしているので、今年度以降は、またそのようなことがなければマイナスになるということはない。

〔川島委員〕

そういうことであれば、心配する必要はないとわかつた。なるべく見込み違いがない方がよいし、後見的支援制度は持続性の問題があると思うので、利用者が増えていくことを踏まえて運営していってほしい。

〔大貫事務室長〕

あゆみ荘については、本来 100 万円を超えるものは横浜市が出すというルールが指定管理者制度の中にある。横浜市もすぐには予算を出せないなので、あゆみ荘をきちんと快適にして少しでも多くの方に利用してもらいたいということから、もともと予定していた改修工事に加え、利用者の苦情にも繋がってしまう調子

の悪い箇所の工事も実施した。この範囲であれば、繰越金を充当できるだろうと事前協議をした。コロナの影響がなければ、学校関係を含め、利用者数が延びる見込みであった。今は2割の利用に留まっている。

後見的支援制度については、横浜市の障害者数 17 万人のうちの登録者 1,700 人はまだまだ少ない。体制整備の必要性を横浜市に伝えている。

〔茨木委員長〕

後見的支援制度については、10 年目と伺ったが、今までの 10 年、これからの 10 年を見直しながら、運営委員会でも議論していけるとよい。

それでは、報告事項(2)福祉バス運行事業及び移動情報センター運営事業の報告をお願いしたい。

(2)福祉バス運行事業及び移動情報センター運営事業の報告について

〔知久事業推進課長〕

資料2-1に基づいて、福祉バス運行事業について説明。7～8月の利用も0件であったことを補足。

〔八木支援課長〕

資料2-2に基づいて、移動情報センター運営事業について説明。

3月末以降、コーディネート先の活動が、不要不急なもの以外は控える状況にあった。また、新学期の通学の相談が増える時期であったが、学校も休校になり、相談件数が減少した。学校再開時には相談が増えていった。相談数は「余暇等社会参加のための外出」が低い、移動情報センターへの相談は少しずつ回復傾向にある。

〔茨木委員長〕

ご質問・ご意見等いかがか。

〔室津委員〕

関係各所から余暇の外出を控えるようにということに対し、ぜひ検証を行ってもらいたい。本人にとってそれが不要不急なのかと考えた時に、必要な外出であったにも関わらず、ガイドヘルパーが使えないという事態が起きていたのではないか。この制限がどうだったのか、経験したことがなく、止めることはやむを得なかったのかもしれないが、どういう影響が誰に対してあったのか、ぜひ検証して次に備えてもらいたいと思う。

また、社会福祉センターの貸館休止について、小さい規模のグループホーム等を運営しているものにとっては、会議は必要で、できるだけ広いところでと言われていたのに、広い場所のここが借りられなかった。密の部屋で会議をするしかなかった。貸館を止めることが妥当だったのか、市社協として検証してもらいたい。

〔茨木委員長〕

あゆみ荘のレクリエーションも中止になっていた。外と接することでストレスが緩和されると思うが、この状況が長く続くと、いろいろな形で支障が出てくると思われる。新しい工夫をして、できる環境を作っていくことも必要だと思う。ガイドヘルパーについても、研修を受けたいと思った学生が、大学生は危ないと断られた

りした。人材確保を含めて、きちんと考えていくことが必要だと思われる。ガイドヘルパーは大事である。

〔大貫事務室長〕

余暇活動として一括りにできない。コロナの終息には時間がかかると思うので、家族、本人の負担をきちんと受け止めなければならないと思っている。貸館については、他からも同じ意見をいただいている。運営委員会から出た意見として横浜市にも伝えていく。

〔茨木委員長〕

他にご意見等いかがか。

〔松島委員〕

福祉バスの利用時に乗車方法にルールはあるか。隣に座ってはいけない等制限があれば、利用できない。もし制限があれば、考えてほしい。

〔知久事業推進課長〕

資料2-1「2 当面の感染拡大防止対策」とある。こういう使い方でもよいという形での記載であり、強制や制限ではない。それぞれの状況に応じた感染対策をとった上で、ぜひ利用していただきたい。

〔渋谷委員〕

新型コロナに感染した場合、しっかり医療につながるがどうか心配している。軽症者の場合、ホテルで静養と言われているが、介護体制が組めるかどうか。

〔大貫事務室長〕

同じ意見をグループホーム等からもいただいた。ホテルでは難しい場合もあるので、きちんと体制を整えてほしいと横浜市に伝えている。

横浜市としては、医療機関は16機関500床用意してある。そのうち使用率は1/3以下であると聞いている。軽症者は5月に移転した市民病院の跡地が病床のまま残り、障害の理解がある職員も配置されていて、200人受け入れる体制をとっている。入院不要との判断があっても、ぜひ市民病院に入れてほしいと意向を伝えれば、横浜市も十分に検討すると聞いている。意見は改めて横浜市に伝えていく。

〔茨木委員長〕

介助は普段から慣れている方でないといけない。どうやって維持できるか、事業所の支援も課題である。それでは、報告事項(3)新型コロナウイルス感染症への対応についていかがか。

〔川島委員〕

横浜市内でも障害者施設でクラスターが発生し、障害者だけではなく、高齢者の施設でも同じような状況がある。実際にどのような対応がされたのか。グループホームではどこにも入れず、中で対応するよう言われ、職員がとても大変な思いをしたという話も聞いた。そのことはきちんと検証して、何ができて、何ができないのか、病院にちゃんと入れたのか等、把握してほしい。弱い立場の障害者や高齢者にしわ寄せが

いくし、介護をしている人達が大変な思いをする。実態を調べた上で、皆で声を合わせて言えるようにしてほしい。

〔熊坂委員〕

実際にどうであったか、きちんと記録を取っていただきたい。人間として扱っているのか、実態はひどいものである。きちんと調査してもらい、施設側、利用者、家族の実態をきちんとまとめてほしい。今年の下半期はこうであったが、来年の上半期はここまでよくなった、利用者からもこんな声が出た、でもこの点はまだまだ足りないというように、オンラインの実態調整をして、ぜひ反映していけるようにしてもらいたい。家族も施設も周りの方々も本当にひどい状況である。

〔茨木委員長〕

大変な時は声が出ないと思うので、これから何が必要か声を上げていきたい。

職員やガイドヘルパー等のPCR検査をもっと徹底してやってもらいたい。安心して利用者に関わることができるような政策が必要である。ショートステイやミドルステイが使えない状況になり、他の施設にお願いする際、その方が濃厚接触者でなければ検査できない。そのような状況で預かれる法人はない。

ルールはあるが、障害のある方はそのルールとは違うやり方もしていけないと日常生活が維持できなくなる。PCR検査の拡充をぜひお願いしたい。トロントにいる友人は、1か月に1回であったのが2回になり、またサービスを受けている障害者と支援者は無償で受けられるようになり、現場を維持していると聞いた。当事者も支援者も声を出していく部分であると思う。

〔長谷山委員〕

訓練会への入会が少ないゆえに予算を使っていない、という話が出た。訓練会は活動ホームで活動している団体がほとんどだが、その活動ホームを使うことができない。使えるようになって、使い方が厳しく、人数も多くは入れない。今年は支援センターに横浜市と交渉していただいて安心しているが、人数を増やしたくても増やせないし、見学の制限もある。予算を使わないからいらなく、必要だが使えない状況にある。訓練会が必要な人がたくさんいることをこれからも一緒に考えてもらいたい。

3 その他

〔茨木委員長〕

その他について何かあるか。

〔知久事業推進課長〕

機関紙「お元気ですか」を3か月遅れで発行した。

次回の第2回運営委員会については、12月7日(月)午後2時から予定させていただきたい。

〔茨木委員長〕

今後、オンラインの併用も検討していかないといけないかもしれないが、皆様から他になれば終わりとしたい。今後ともよろしくお願ひしたい。